皆松葉ニテ十箇横ニ貫ク、又細篠ニテ貫クモアリ、皆鹿宍或ハ木宍ニシテ舶來ニ異ナリ、

〔古事記下雄略〕天皇坐御吳床、爾蜩咋御腕、○中略多古牟良爾、阿牟加岐都岐、○略下

〔古事記傳四十一〕蜩は延佳本に蟲と作るは、さかしらに改めたるなり○中略蚘なり、書紀には蚘とも蟲とも書れたり、蚘と蟲とは同字也、和名抄に、説文云、蟲齧人飛虫也、和名阿夫とあり、蜩は字書には見えざれども、皇國にて、古に書ならへる字なるべし、然る類多し、師云、囮と亡と同じければ、蚘を蜩と書るかと云れたり囮と亡と同じきこと未考へず、若さることあらば、此説の如くにてもあるべし、字書を考るに、罔网囮など同じき由あれば、亡をも通はして書るにや、字鏡に、蜩奴可我、また蚘蜩同奴可我とあれば、蜩と蚘と通ふよしあるにこそ、

〔續日本後紀十五仁明〕承和十二年五月乙卯、山城國言、綴喜相樂兩郡境内、始自去三月上旬、蟲虫殊多、身赤首黑、大如蜜蜂、好咬牛馬、咬處卽腫、相樂郡牛斃盡無餘、綴喜郡病死相尋、郡司百姓求之龜筮、就于佛神、隨分祓攘、曾無止息、移染之氣于今比行者、令卜其由、綴喜郡樺井社、及道路鬼更爲祟、卽遣使折謝之、兼賜治牛疫方幷祭料物、

〔今昔物語十三〕筑前國僧蓮照身令食諸蟲語第廿二

今昔、筑前ノ國ニ蓮照ト云僧有ケリ、○略中諸ノ虫ヲ哀テ、多ク蚤虱ヲ集メテ、我ガ身ニ付テ飼フ、亦蚊蚘ヲ不掃ハ、蟻蛭ノ食付クヲ不厭シテ、身ノ宍ヲ令食ム、而ルニ蓮照聖人、態ト蚘蟻多カル山ニ入テ、我ガ肉血ヲ施サムト爲ルニ、裸ニシテ不動シテ、獨リ山ノ中ニ臥タリ、卽チ蚘蟻多ク集リ來テ、身ニ付ク事无限シ、身ヲ喰ム間、痛ミ難堪シト云ヘドモ、此レヲ厭フ心无シ、而ル間、身ニ蚘ノ子ヲ多ク生入レツ、○略中聖人ノ夢ニ、貴ク氣高キ僧來、○略中此ノ疵ヲ撫デ給フト見テ、夢覺ヌ、其後身ニ痛ム所无クシテ、疵忽ニ開テ、其中ヨリ百千ノ蚘ノ子出デ、飛テ散ヌ、

〔平家物語五〕文覺の荒行

そもそもこの文覺と申は、○略中六月の日の草もゆるがず、てつたるに、あるかた山里のやぶの中へはいり、はだかになり、あをのけにふす、あぶぞ蚊ぞ、はちありなどいふどくちうどもが、身にひ